

視線の先にあるものの大切さ

群馬県総合教育センター
所長 上原 篤彦

この世に命を授かった赤ちゃんは、周りの人たちに大切にはぐくまれ成長していきます。その成長の過程で、人とのかかわりを身につけていきますが、その中で大切なこととして「共同注意」ということがあります。

「共同注意」とは、人（たとえば、赤ちゃん）がひとつの空間の中で、他の人（たとえば、お母さん）と同じように物や人物に対して注意を向けることです。さらに相手が注意を向けていることがわかっている状態です。具体的な例としては、赤ちゃんが見ている「ねこ」をお母さんも見ている。

そのことを赤ちゃんがわかっている状態です。

「共同注意」は、生まれてきてから、時間を積み重ね、人との関わりの経験を積んでいくことにより、徐々にその力を獲得していきます。そして、生後12ヵ月ころに可能となると考えられています。その頃のお母さんや周りの人たちは、赤ちゃんの視線や手の動き、声などから何を伝えたいのかを感じとって、赤ちゃんに伝え返したり、ものを手渡したりしています。言語でのコミュニケーションが難しい時期は、お母さんや周りの人たちは、赤ちゃんの視線の先にいつも最大限の注意をはらっていました。

成長していくにしたがって、主に言葉を使ったコミュニケーションへと変化していきます。言葉を使って、要求や気持ちを伝えることができるようになります。10歳頃には抽象的な思考もできるようになります。

言葉でのコミュニケーションがとれるようになると人との関係は相對しての視線が多くなります。保育園、幼稚園に通う頃の子どもたちはとても元気です。やんちゃなことも多くします。どうしても制止したり、注意したりすることも多くなります。

うまくは説明でないかもしれませんが、子どもにはその行動をしたときの理由があるはずです。「それをやってみたかった」というストレートな理由かもしれません。

子育ては大変で余裕はないかもしれません。

ただ、言葉でのコミュニケーションが難しかった時期に赤ちゃんの視線の先に注意をはらっていたことを思い出し、今の子ども視線の先に何があるのかという見方をすることの大切さを思いみることで、子どもへの言葉のかけ方や行動のとらえ方が変わってくるのではないのでしょうか。

同じ視線で見えているものについて、共感をもって話し合うことで、子どもたちとの満ち足りた、かけがえのない時間を共有できるのではないのでしょうか。





研修講座「幼児教育研修講座」 実施報告

研修の概要

- ◆日時：8月8日（木） 13:35～16:30
- ◆会場：総合教育センター 体育研修棟2階
- ◆講義題：「表現を遊ぶ～表現活動のポイント、インプロ劇遊び、言葉遊び～」
- ◆講師：やまねこ座－人形劇工房－ 代表 高橋 幸良 氏
- ◆内容：前半は、発声法や立ち方・歩き方、身体表現とその見取り方等を学びました。
後半は、ゲームから班を作り、班ごとに詩を基にしたインプロ劇を作り、発表しました。



受講者の声 受講者数:99名

- 表現することの楽しさを心から感じる事ができた。恥ずかしさよりも清々しさや自然と笑みがこぼれるような表現の楽しさを子供たちと共有したいと思った。
- 同じ気持ちの表現でも人によって様々な違いがあり、それぞれの表現を理解しようとする見方が大切であると感じた。保育の中でも子供の多様な表現を認め、生かす関わりをしたいと思う。
- 全身を使った表現から豊かな創造力を身に付けるための知識を得ることができた。
- どんな表現も受け止め、認め合えることがとても心地よく、保育にもつながると感じた。
- 先生（講師）の魅力に惹かれ、先生の存在や演出は大事だと改めて感じた。
- 自分が表現活動をしたことで表現する楽しさをとても感じる事ができた。
この楽しさを子供たちも感じられるように表現活動を取り入れていきたい。
- 中学校経験が長かったが、学校も幼稚園も先生が演技者であることが必要であり、その意識を再確認させてもらえた。
- 発達に障害がある幼児にも、表現する楽しさに気付けるようなヒントがたくさんあった。日々の保育につなげたい。



夕やけ保育研修会（発達の理解と保育） 実施報告



研修の概要

- ◆日時：7月9日（火） 15:15～16:50
- ◆会場：総合教育センター
- ◆講義題：「子育て支援の事例発表と情報交換」
- ◆講師：NPO時をつむぐ会内
「ぴよぴよの会」代表
横山 由美子 氏

受講者の声 受講者数:51名

- 横山先生の話がとてもよかった。
子育て支援の在り方について話をもっと聞きたい。
- 親子の交流を大切にできる場づくりの参考になった。
- 他園の現状を知ることができる情報交換は貴重だった。
- 地域で親子を支援することが重要であると思った。
- 参考になる本も紹介してもらえてよかった。

研修の概要

- ◆日時：8月2日（金） 15:15～16:50
- ◆会場：吉岡町文化センター
- ◆講義題：「気になる幼児の理解と支援
～作業療法士の視点から～」
- ◆講師：anomira代表 作業療法士
北爪 浩美 氏

受講者の声 受講者数:55名

- 具体的な援助の方法や関わり方を教えてもらい、とても参考になった。気になる子が生きやすく過ごしやすい環境を作り、就学につなげたいと思った。
- 障害をもっている子供はなぜできないかということをも自分自身で分かっていない、ということを知り、保育者が見極める技術を取得することが大切だと思った。

研修の概要

- ◆日時：9月6日（金） 15:15～16:50
- ◆会場：太田市宝泉行政センター
- ◆講義題：「幼児期の発達の理解と保育」
- ◆講師：群馬大学大学院 准教授
大島 みずき 氏

受講者の声 受講者数:54名

- 「できる・できない」で判断するのではなく、子供の目線に立って考えることの重要性が分かった。
- 保育者それぞれに子供の見方の癖があるので、自分の見方の癖を知ること、そして多面的に見られるようになるためにも、チーム保育が大切であると思った。

今後の研修

- ◆日時：10月31日（木） 15:15～16:50
- ◆会場：富岡市役所 議会棟3階会議室
- ◆講義題：「気になる幼児の理解と支援」
- ◆講師：NPO法人リンケージ理事長 石川 京子 氏

参加申込受付中！！

夕やけ保育研修会（幼保こ小連携・接続） 実施報告



研修の概要

- ◆日時：7月17日（水）15:15～16:50
- ◆会場：渋川市北橋公民館
- ◆講義題：「接続期の教育課程を考える」
- ◆講師：高崎健康福祉大学教職支援センター 高梨 珪子 氏

受講者の声 受講者数：84名

- 子供の姿をしっかりと捉えることで、どのような体験をして育ったのかが明確になったと思った。
- 「修了時の姿」の作成過程等が分かりやすかった。
- 「修了時の姿」を作成し送付してもらい、活用することで、小学校でのよいスタートが切れるようになったと感じた。

研修の概要

- ◆日時：7月29日（月）14:00～16:30
- ◆会場：桐生市市民文化会館スカイホール
- ◆講義題：「接続期の教育課程を考える」
- ◆講師：高崎健康福祉大学教職支援センター 高梨 珪子 氏

受講者の声 受講者数：54名

- 「修了時の姿」の具体的な内容を見せていただき、細かい心情なども読み取れるものであることが、よく分かった。また、園で細かい指導を行っていることが分かり、学校での指導に生かしたいと感じた。
- 要録以外の形で、どのようにまとめるのか具体例を見せていただき、分かりやすかった。

研修の概要

- ◆日時：8月6日（火）15:15～16:50
- ◆会場：甘楽町公民館
- ◆講義題：「接続期の教育課程を考える」
- ◆講師：高崎健康福祉大学教職支援センター 高梨 珪子 氏



受講者の声 受講者数：40名

- 幼稚園からいただいた「修了時の姿」は1年担任の学級経営や授業の参考にすることができた。
- 「修了時の姿」の活用や園の先生方の考えを知るよい機会になった。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、かなりレベルが高く、どう捉えたらよいのかよく分からなかったが、本研修を通して部分的に見取っていく感覚が理解できたと思う。
- 「修了時の姿」を作成することで、小学校との接続がスムーズにでき、子供自身が過ごしやすい環境になることが分かった。

研修の概要

- ◆日時：8月19日（月）15:15～16:50
- ◆会場：高崎市市民活動センターソシアス
- ◆講義題：「『幼保こ小の連携・接続』の充実が子どもの未来を支える」
- ◆講師：日本大学 准教授 田中 謙 氏

受講者の声 受講者数：26名

- 今年初めて1年生を担当し、幼稚園・こども園・保育所からの情報もあまりなく、手探り状態だった。発達に課題のある子供も多く、連携・接続の難しさを感じていたので、今回の研修会は興味深かった。
- 「10の姿」に当てはめるPDCAを園内研修で行っているが、少々苦しくなっていたところなので、「姿を当てはめる」評価ではないという話を聞くことができてよかった。

研修の概要

- ◆日時：9月2日（月）15:15～16:50
- ◆会場：館林市郷谷公民館
- ◆講義題：「写真から読み取る幼児の姿と学び」
- ◆講師：群馬パース大学福祉専門学校 講師 田子 文子 氏



受講者の声 受講者数：33名

- 写真から幼児の姿を読み取ることは、今まであまりしてこなかった。教師の視点、幼児の視点の両面から捉えることで、保育の見直しや幼児の育ちが見えてくると感じた。「～した」というだけの記録ではなく、保育の評価や反省につなげられると思うので、今後生かしていきたいと思う。また、写真を通して幼児の育ちを見ることができるようになっていきたいと思う。
- 一枚の写真から、幼児の思いや育ち、教師の関わり、見取り、環境の在り方など、様々なことを振り返ったり共有したりできるので、職場で生かしていきたいと思う。
- 環境を見直すことにも使っていきたいと思う。
- 写真一枚で、子供についての理解だけでなく、保育者同士の語り合いのきっかけにつながるということを学び、ぜひ園で取り入れていきたいと思った。



- ◆日時：10月9日（水）15:15～16:50
- ◆会場：長野原町 住民総合センター
- ◆講義題：「写真から読み取る幼児の姿と学び」
- ◆講師：群馬パース大学福祉専門学校 講師 田子 文子 氏

参加申込受付中！！

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とは？



幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説、保育所保育指針解説にある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」についての記述を要約すると次のようになります。

5領域のねらい及び内容に基づいて、各園所で、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼児期の教育において育みたい資質・能力が育まれている**幼児の具体的姿**であり、特に5歳児後半に見られるようになる姿である。

保育者は、遊びの中で幼児が発達していく姿を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置いて捉え、**一人一人の発達に必要な体験が得られるような状況をつくり必要な援助を行ったりする**など、指導を行う際に考慮することが求められる。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が**到達すべき目標ではない**ことや、**個別に取り出されて指導されるものではない**ことに十分留意する必要がある。もとより、幼児期の教育は環境を通して行うものであり、とりわけ幼児の自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特性に応じて、これらの姿が育っていくものであり、**全ての幼児に同じように見られるものではない**ことに留意する必要がある。

5歳児に突然見られるようになるものではないため、5歳児だけでなく、**それぞれの時期から、乳幼児が発達していく方向を意識して**、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことに留意する必要がある。

小学校においては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導を工夫することにより、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、**児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かう**ことが可能となるようにすることとされている。

子供の発達と**学びの連続性**を確保するためには、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、園所の保育者と小学校の教師が共に幼児の成長を共有することを通して、幼児期から児童期への発達の流れを理解することが大切である。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を**踏まえて**とは、**具体的にはどうすれば**よいのでしょうか？

子供の内面に育っている力、育ちつつある力を見取る視点(窓口)として活用する
人間は思い込みで目の前の現象を見るものです。そこで、子供の内面に育っている力、育ちつつある力を見取る視点(窓口)として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用しましょう。多様で多角的な考察が可能になるでしょう。下図のベクトルを意識します。「子供の姿」を、これは「自立心だ」というように、当てはめて見る必要がないように留意する必要があります。例えば、「自立心」が育っていると見取った幼児の遊ぶ姿の中にも、視点を変えれば、「思考力の芽生え」や「言葉による伝え合い」「協同性」などの育ちも見取ることができたり、それらが相互に関係し合っていることも理解できたりするのではないのでしょうか。

この一連の読み取りの構造が保育者の頭にあることが、「踏まえて」ということだと考えられます。

全文を視点にするのではなく、**キーワードを用いて**

<例>「自立心」

全文
身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならぬことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

キーワードの例

- ★自分の力で行うために考えたり、工夫したりする。
 - ★諦めない。 ★自信をもつ。 など
- これらを用いて自分の言葉で表しましょう。



お知らせ

夕やけ保育研修会 特別講演会



- ◆日 時 : 12月26日(木) 14:00~16:00
- ◆会場 : 群馬県総合教育センター
- ◆講義 題 : 「遊びを中心とした保育の充実を目指す」
- ◆講師 : 聖心女子大学 教授 河邊 貴子 氏

参加申込
受付中!